

川越

グループ名: チーム“プラチナの輝き”

gst19i005 横田宜明 班長

gst19i001 宇野千鶴子

gst19i002 小林基昭

gst19i003 船山芳樹

gst19i004 八巻綾子

アドバイザー

早川陽子

上野優佳

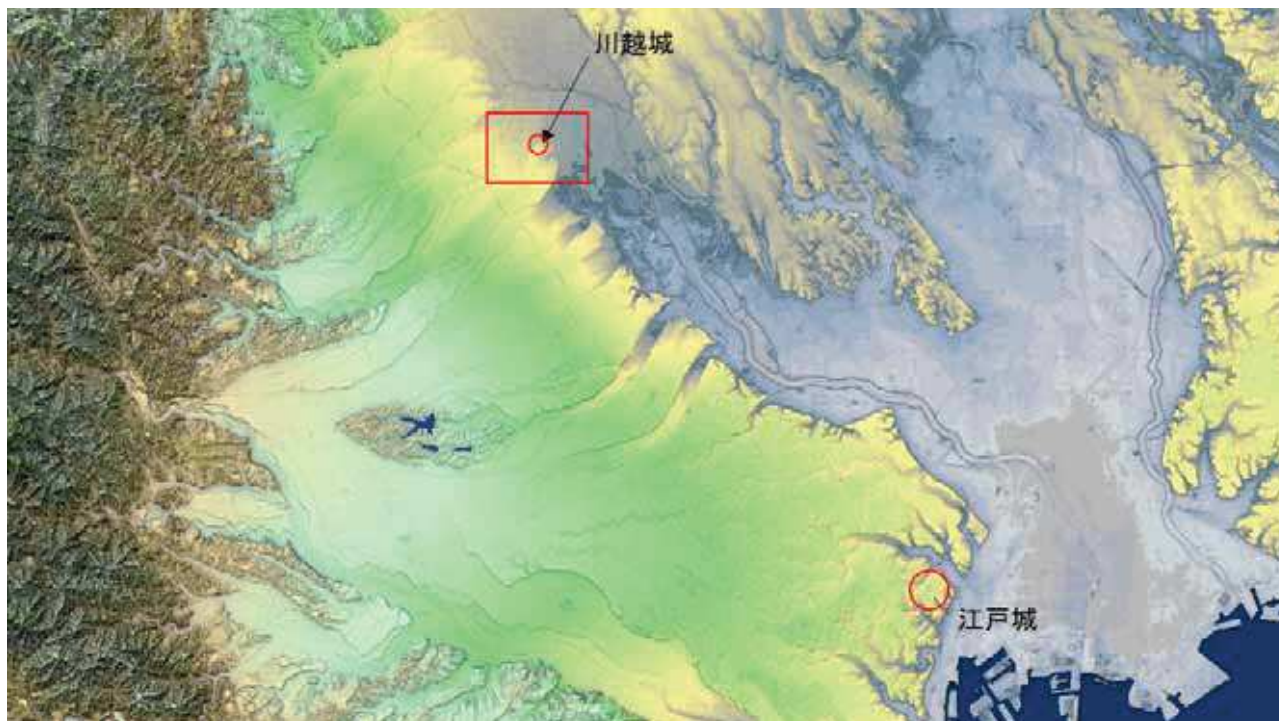
1. 川越城下町の位置と地形

- 江戸城から南西方向に36km
- 江戸とは、川越街道と新河岸川の舟運より結ばれていた
- 川越城は、江戸城と同じ武蔵野台地とともに武蔵野台地の端に築城

	江戸城	川越城
比高差	30m	20m
城下町	主に低地	台地



- 台地に城下町を置く例は、水戸、上田、小諸、飯田他



2. 江戸図屏風に見る江戸と川越

- 3代将軍 徳川家光の華やかな時代を描いた江戸図屏風
- 左隻には、江戸城と大名屋敷が描かれ、右隻には川越城と鷹狩の様子が描かれている
- 江戸との密接な関係を読み解くことができる



3. 古地図の移写(川越市立中央図書館)

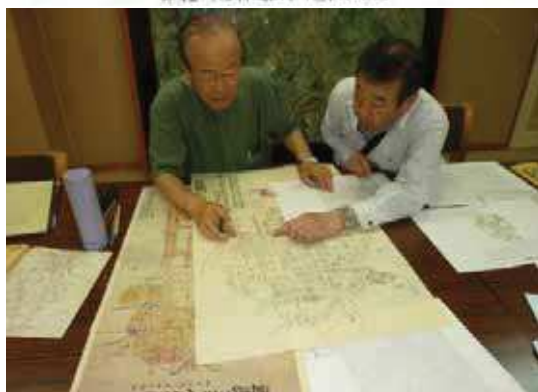
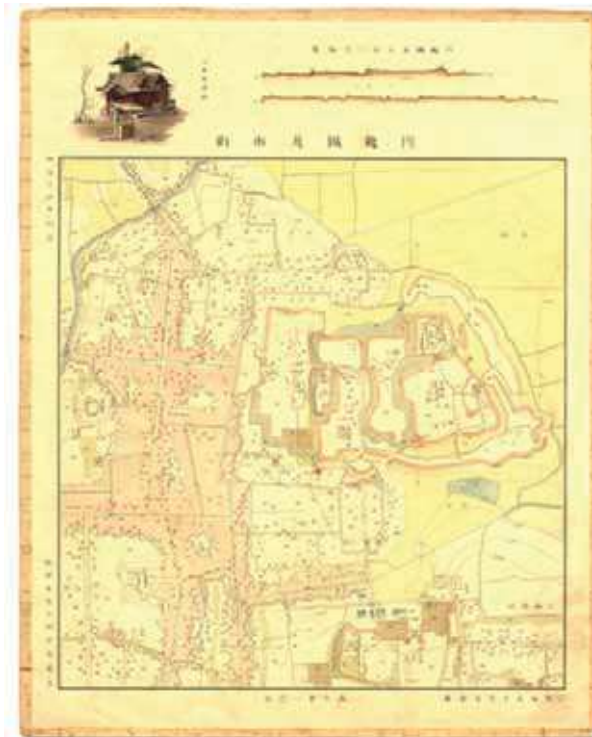
江戸時代:川越御城下図
(1694元禄7年)



川越城:川越城図
(昭和10年6月1日)



明治時代フランス式彩色地図
(1881明治14年 明治前期測量2万分1)



4. 江戸時代の川越

残っているもの

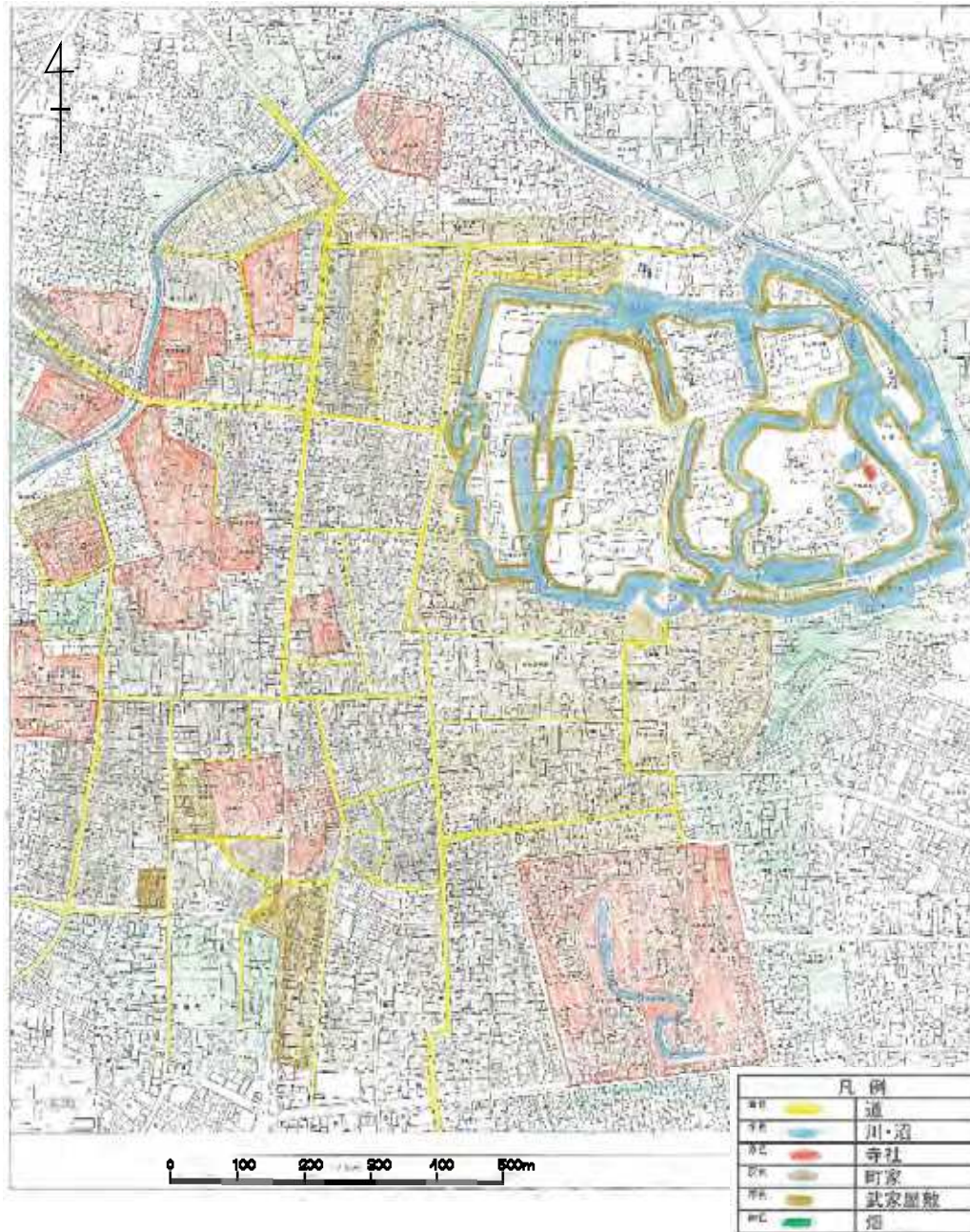
- 基本的な道路網
- 宅地割
- 神社仏閣
- 町家



1638年寛永15年
喜多院客殿
引用:文化庁



1792年寛政4年
大沢家住宅



変化しているもの

- 市街地の広がり
- 明治以降鉄道駅周辺へ賑いが移る
- 歴史的町並みが観光地化し賑いを取り戻している
- 武家屋敷地は緑の多い住宅地になる



1925年大正14年
山崎家住宅

5. 川越城

- 石垣は当初からなく、堀は埋め立てられて一部道路の形態に堀の痕跡が見られる。
- 城址は、公共施設(市役所・高校・小学校・幼稚園・博物館・野球場)として活用されている。

残っているもの



本丸御殿



三芳野神社



中ノ門堀跡



凡例	
道路	道
川・沼	川・沼
寺社	寺社
町家	町家
土居	土居
堀	堀
建物	建物

変化しているもの



川越高校



川越市立博物館

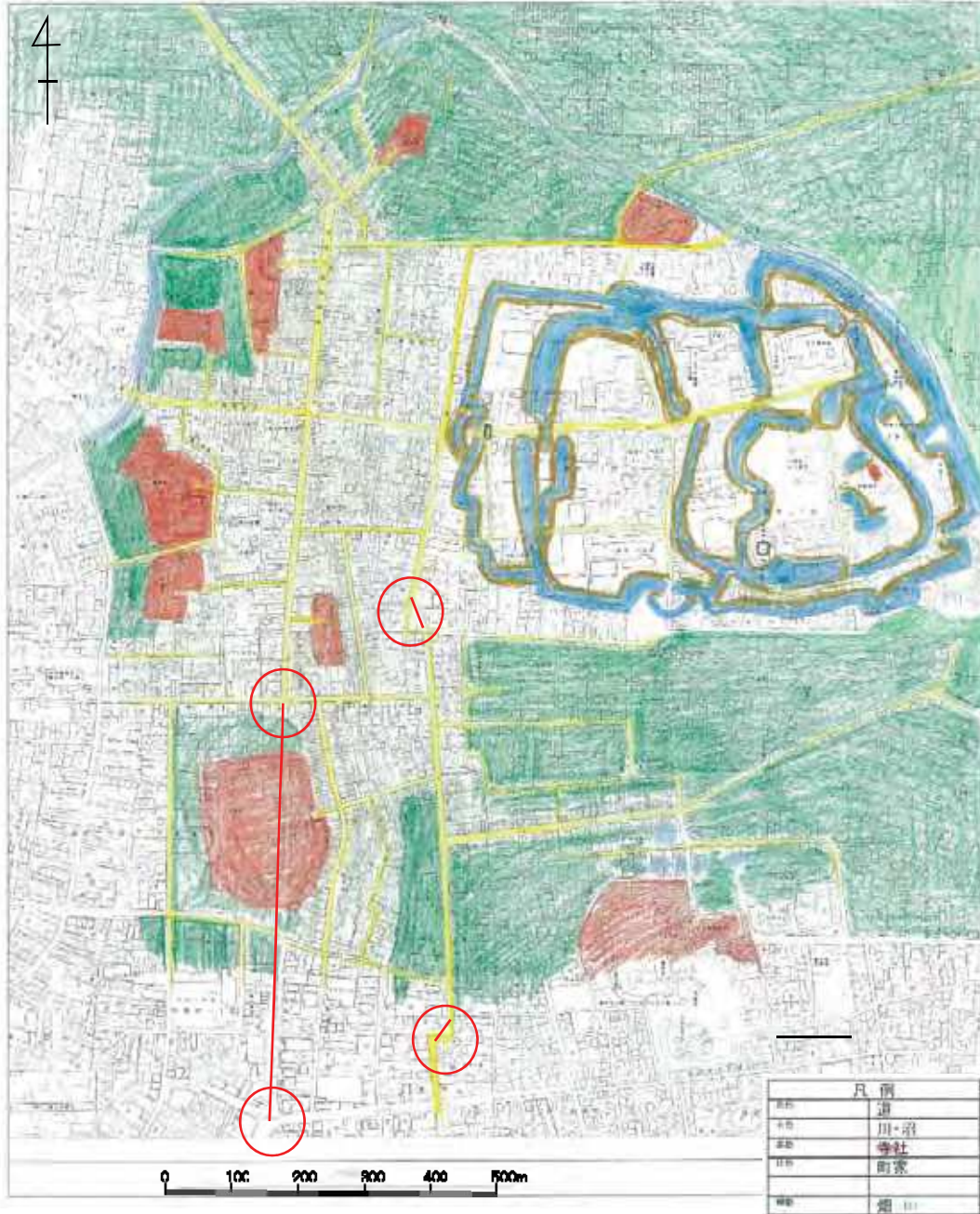


川越市立博物館

6. 明治の川越

残っているもの

- 江戸時代からの道路網・宅地割
- 神社仏閣
- 1893年明治26年の大火以後の蔵造りの町並み



変化しているもの

- 武家地は農地へ
- 江戸時代からのT字路が十字路へ
- 鉤型道路の直線化
- 洋風建築の増加 (大正・昭和初期)



7. 現在の川越の課題

- 町並み保存が功を奏し、観光地化が進む
- 古建築の魅力を活かしたリノベーションが街の魅力を高めている
- 「町づくり規範」が建築ファサードのルールとなっているが、理念的であり、歴史的な景観を損ねる例もみられる
- 景観形成と現代建築をどう融合させていくかが課題

